

**県北・県央地域で
クモヘリカメムシの発生が多くなっています！
～斑点米発生防止には乳熟期の防除が重要です！～**

[発令の内容]

作物名 : 水稻
病虫害名 : クモヘリカメムシ
発生量 : 多い
発生地域 : 県北・県央地域

[発令の根拠]

- ① 8月上旬現在, 県北・県央地域の水田内におけるクモヘリカメムシ(写真1, 2)のすくい取り虫数は平年より多く, 発生地点率は平年より高い(表1)。
- ② 県北・県央地域のクモヘリカメムシの産卵開始は平年より早い。また8月上旬現在の幼虫発生割合は平年より高い。
- ③ 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年並か高く, 発生を助長する条件である。

表1 水田内におけるクモヘリカメムシの地域別生息状況(平成27年8月上旬調査)

地域	調査地点数	平均すくい取り虫数(頭/20回振り)			発生地点率(%)		
		本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北	8	9.5	1.6	1	75	28	1
県央	15	3.9	1.3	2	53	24	1
鹿行	6	1.3	2.3	7	50	33	3-4
県南	19	0.5	0.3	3	26	9	1
県西	9	0.3	0.2	3-4	25	4	1
全県	57	2.7	0.9	2	43	17	1

1) 平年:平成17～26年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:本年を含む過去11年間に於ける本年値の順位を示す(3-4は3位から4位まで同じ数値であることを表す)。



写真1 クモヘリカメムシ(成虫)



写真2 クモヘリカメムシ(幼虫)

[防除対策]

- ① 乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる^{※)}。すでに空中散布などで防除を実施した水田であっても、その後幼虫がふ化したり新成虫が再飛来したりするので、発生を認めた場合は表2を参考にして追加防除を実施する。
- ② ふ化直後の幼虫は非常に小さいため、発生していても気がつかない場合がある。出穂期に成虫を確認した水田などでは、よく観察する。
- ③ 収穫の遅い水田では、8月中旬以降に新成虫の飛来により集中的に被害を受けるので注意する。
- ④ 防除の際には、薬剤の使用基準に定められた収穫前日数を遵守する。また、周辺作物（特に早生品種を作付している水田がある場合）への飛散に注意する。

※ 乳熟期から糊熟期に捕虫網（直径36cm）を用いた20回振りすくい取り調査で幼虫が3頭以上確認される水田では、玄米等級が2等以下に等級落ちする確率が高い。

表2 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成27年8月5日現在）

薬剤名	使用方法	希釈倍数	収穫前日数	本剤の使用回数	有効成分
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	散布	2,000倍	7日	3回以内	ジノテフラン
キラップフロアブル	散布	1,000～2,000倍	14日	2回以内	エチプロール
MR. ジョーカーEW	散布	2,000倍	14日	2回以内	シラフルオフェン

※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認する。

※ 育苗箱施薬による防除，航空防除を行っている場合は，本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。